

世界一高価なスパイスは婦人薬に利用

## サフラン (アヤメ科)

*Crocus sativus* Linné



部位	柱頭
生薬名	サフラン <b>局方収載</b>
成分	クロシン (カロテノイド配糖体)、 ピクロシン (苦味配糖体)
薬理	血小板凝集抑制作用、胆汁分泌亢進作用
適用	婦人用薬に配合 (漢方薬には配合されない)

ヨーロッパが原産の多年草。3倍体で種子繁殖はできないので、鱗茎で増殖しますが、花卉は紫色、雄しべは黄色、雌しべは橙色とカラフルな花を咲かせます。11月初めに咲き始め、2週間ほどで咲き終わります。薬用部位は、めしべの途中で3つに分枝した柱頭で、1gを得るのに約120個の花が必要と言われています。手作業で収穫されるため、非常に高価な生薬です。婦人病薬に冷え症や血行不良の改善、鎮静などを目的に配合されますが、月経を促す作用があるため、妊婦には使用されません。食品としては、古くから高貴なスパイスとして珍重され、スペイン料理のパエリアなどにはなくてはならない香辛料です。また、サフランティーも有名です。

## ゴシュユ (ミカン科)

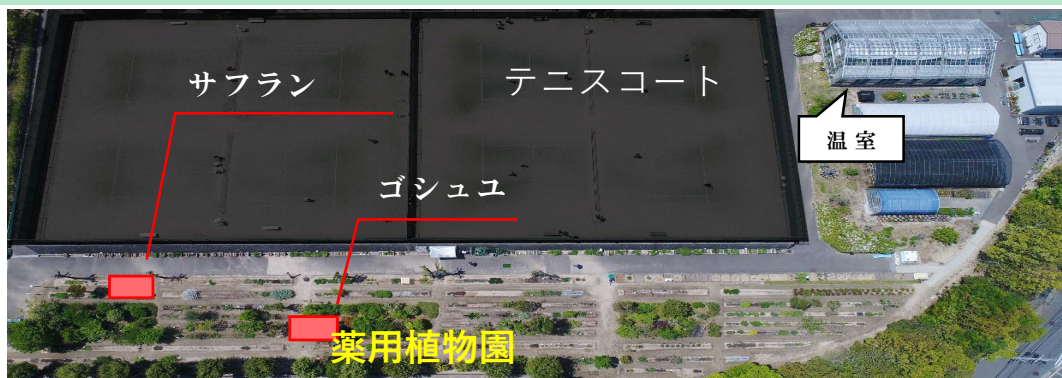
**冷え性 (冷え症) への救世主? 身体を強力に温めて症状改善!**

*Euodia ruticarpa* Hooker filius et Thomson  
(*Evodia rutaecarpa* Bentham)



部位	果実
生薬名	呉茱萸 (ゴシュユ) <b>局方収載</b>
成分	エボジアミン (インドールアルカロイド)
薬理	鎮痛作用、血流促進作用
薬能	温裏薬、疏肝
漢方	温経湯、呉茱萸湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯など

中国南部に分布する落葉小高木。雌雄異株ですが、江戸時代に日本に伝わった株が雌株であったため、種子は付けず走出枝による株分け (挿し木も可) によるもので、国内の植物園にあるものは、ほとんどが雌株です。薬用部位は、果実 (写真) です。本園では、樹上で大きな葉に隠れて目に留まりにくいので見上げて下さい。漢方薬の呉茱萸湯は身体が冷えることで症状が悪化する習慣性の偏頭痛や頭痛に用いられます。また、女性に多い手足の冷え (漢方では冷え症) にもよく使用されます。漢方には、身体を温めて治療する薬があり、呉茱萸はその代表的な生薬です。観察時に果実を触った手で目を擦ると刺激が強いため注意しましょう。



ホームページでも  
ご覧いただけます